

機械器具（58）整形用機械器具  
 一般医療機器 骨手術用器械 70962001

## TES ネイルシステム用手術器械

### 【警告】

本手術器械は未滅菌のため、[保守・点検に係る事項]に定める方法で、使用前に必ず滅菌を行い、使用後は必ず洗浄・滅菌を行い、清潔に保管すること。

### 【禁忌・禁止】

[併用医療機器]

当製造販売業者製の骨折部固定内副子材料以外の骨接合手術に使用しないこと。（「相互作用」の項参照）

### 【形状・構造及び原理等】

#### 1. 組成

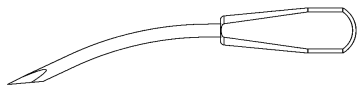
ステンレススチール、アルミ合金、チタン合金、PEEK、PF

#### 2. 形状・構造・原理

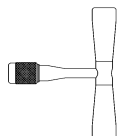
本品は大腿骨転子部骨折等の骨接合手術に用いる TES ネイルシステム（医療機器承認番号：22700BZX00086000）専用の手動式手術用器械セットであり、骨への適切な穴あけ、インプラントのサイズ測定、固定及び抜去等を行います。

尚、本手術器械の製品名、カタログ番号については、包装表示ラベル又は製品本体に記載されていますのでご確認ください。

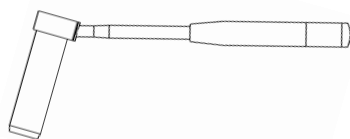
- ☐ Cat. No. HS01-0102  
製品名：中空オウル



- ☐ Cat. No. HS01-0310/0370  
製品名：T 型ガイドワイヤーハンドル /  
T 型ガイドワイヤーハンドル S φ 2.4-φ 3.2



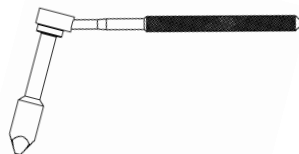
- ☐ Cat. No. IS01-0401  
製品名：スキンプロテクター



- ☐ Cat. No. IS01-0516  
製品名：フレキシブルリーマー φ 16.5



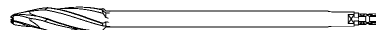
- ☐ Cat. No. IS01-0600  
製品名：ガイドピンスリーブ



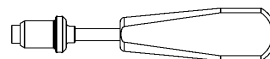
- ☐ Cat. No. IS01-0700  
製品名：クラウンリーマー



- ☐ Cat. No. IS01-0820  
製品名：プロキシマルリーマー（T）φ 16.5



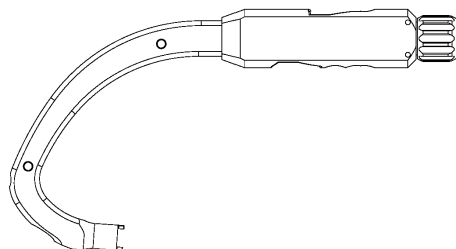
- ☐ Cat. No. HS01-0902  
製品名：グリップハンドル



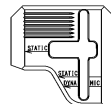
- ☐ Cat. No. IS08-2000  
製品名：ネイル接続ネジ



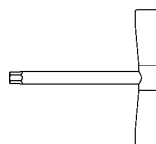
- ☐ Cat. No. IS08-2100/2200  
製品名：ターゲットデバイス 125° /130°



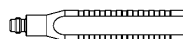
- \* ☐ Cat. No. IS08-2230  
製品名：T/D130°用セレクトガイド



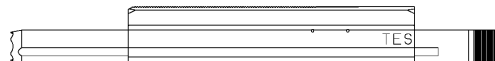
- ☐ Cat. No. HS01-2301  
製品名：ネイル接続ネジ用 T レンチ



- ☐ Cat. No. IS01-2400  
製品名：T/D 用ロッドインパクター



- \* ☐ Cat. No. IS08-3040  
製品名：TES ラグスクリュー用スリーブ（EX）



- ☐ Cat. No. IS08-3030  
製品名：TES エクストラ用スリーブ



- ☐ Cat. No. IS08-3100  
製品名：TES ラグスクリュー用ガイドピンスリーブ



- ☐ Cat. No. IS08-4110  
製品名：TES エクストラ用ガイドピンスリーブ



- ☐ Cat. No. IS08-3200  
製品名：TES3.2 ガイドピン用ピンオウル



- ☐ Cat. No. IS08-4300  
製品名：六角 5.0 中空レンチ



- ☐ Cat. No. HS01-3600  
製品名：3.2 ガイドピンアダプタ



- ☐ Cat. No. IS08-3400  
製品名：TES ガイドピンデプスゲージ (骨面直接型)



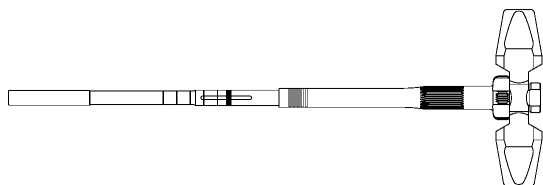
- ☐ Cat. No. IS08-3500  
製品名：TES ステップリーマー 10.7



- ☐ Cat. No. IS08-3600  
製品名：TES ラグスクリュー用インサータ



- ☐ Cat. No. IS08-3700  
製品名：TES ラグスクリューT レンチ



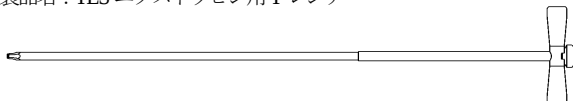
- ☐ Cat. No. IS08-4400  
製品名：4.0 コーテックスドリル



- ☐ Cat. No. HS02-1400  
製品名：ドリルアダプタ



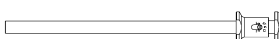
- ☐ Cat. No. IS08-4200  
製品名：TES エクストラピン用 T レンチ



- ☐ Cat. No. IS08-4500  
製品名：抜去用エクストラピン T レンチ



- ☐ Cat. No. IS08-4600  
製品名：抜去用エクストラピンホルダー



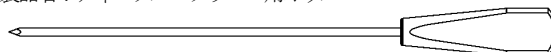
- ☐ Cat. No. IS03-5100  
製品名：ディスタルスクリュー用ドリルスリーブ



- ☐ Cat. No. IS01-5000  
製品名：ディスタルスクリュー用スリーブ



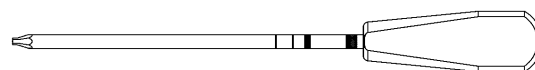
- ☐ Cat. No. IS01-5102  
製品名：ディスタルスクリュー用オウル



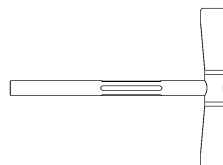
- ☐ Cat. No. IS01-5300  
製品名：ディスタルスクリュー用デプスゲージ



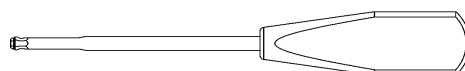
- ☐ Cat. No. IS01-5410  
製品名：ディスタルスクリュー用ドライバー



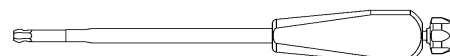
- ☐ Cat. No. IS08-5000  
製品名：ロッキング確認用ラグスクリューT レンチ



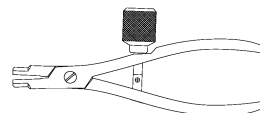
- ☐ Cat. No. HS01-6220  
製品名：ストレートドライバー-L



- ☐ Cat. No. IS01-6240  
製品名：ストレートドライバー (ホールド型)



- ☐ Cat. No. IS08-6500  
製品名：エクストラピン抜去用プライヤー



\*\*\* ・適用ガイドピン  
Cat. No. HS01-3500S  
製品名：3.2 ガイドピン 420mm

・適用ガイドワイヤー  
Cat. No. HS01-0200S  
製品名：2.5 ガイドワイヤー 680mm

・適用ドリル  
Cat. No. HS30-4529D1S  
製品名：ディスタルスクリュー用ドリル (L) 288mm  
Cat. No. HS30-4529T36S  
製品名：ディスタルスクリュー用ドリル (L) ストッパー付き 36mm

### 【使用目的又は効果】

骨接合手術等の骨手術に用いる手術器械をいう。手動式のものに限り、本品は再使用可能である。

### 【使用方法等】

#### 1. 使用前

本手術器械は未滅菌のため、手術前に予め【保守・点検に係る事項】に示す条件にて滅菌を施して下さい。

#### 2. 使用時(使用例)

- 1) 骨折部を整復後、中空オウルにて大転子頂部を開窓し、T 型ガイドワイヤーハンドルにて把持したガイドワイヤーを挿入します。(図 1)
- 2) グリップハンドルをフレキシブルリーマー後端に接続し、スキンプロテクターを介して髓腔をリーミングします。(図 2)

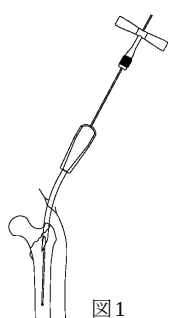


図1

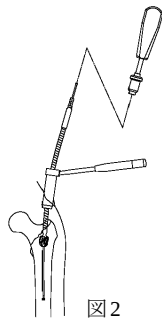


図2

- 3) プロキシマルリーマー (T) を使用する場合は、スキンプロテクターにガイドピンスリーブを組み付け、3.2 ガイドピンの刺入後 (図3)、リーマー後端にグリップハンドルを接続し、リーミングします。 (図4)
- 4) 大転子の骨折部付近にネール挿入口を作成する場合には、クラウンリーマーを用います。 (図5)

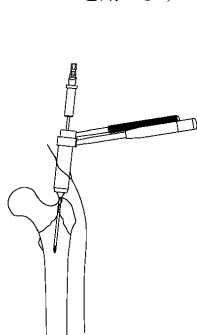


図3

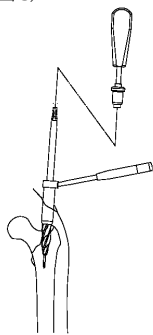


図4

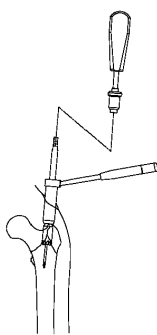


図5

- 5) ネールとターゲットデバイスの取り付け向きを注意し、ネール接続ネジでネール接続ネジ用 T レンチを用いて確実に固定します。 (図6)
- 6) ターゲットデバイスにラグスクリュー用スリーブを装着し、ステッブリーマーを通し、ネールのラグスクリューホールに干渉しないことをチェックします。ラグスクリュー用スリーブにエクストラ用スリーブ (外筒) 及びガイドピンスリーブ (内筒) を組み付け、3.2 ガイドピンがネールのエクストラホールを通過することをチェックします。スリーブは、ターゲットデバイスのつまみを 180 度回転させ、固定して下さい。 (図7)

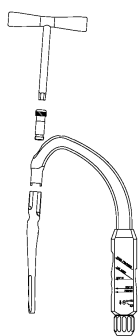


図6

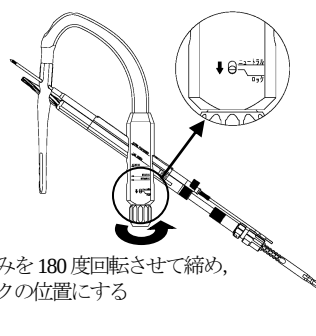


図7

つまみを 180 度回転させて締め、ロックの位置にする

- 7) ターゲットデバイスにディスタルスクリュー用ドリルスリーブを組み付けたディスタルスクリュー用スリーブを装着し、ディスタルスクリュー用ドリル (L) を通し、ネールのディスタルスクリューホールに干渉しないことをチェックします。 (図8)

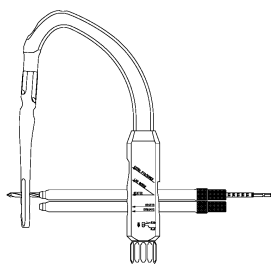


図8

- \* 8) ターゲットデバイス 130° には T/D130° 用セレクトガイドが取り付けられています。ラグスクリュー用スリーブを使用する際は、セレクトガイドを近位側へ移動させます (ストッパーで止まる位置まで)。 (図9) ディスタルスクリュー用スリーブを使用する際は、セレクトガイドを遠位側へ移動させ (ストッパーで止まる位置まで)、ターゲットデバイスのスリーブ穴と合致させます。 (図10) セレクトガイドは取り外しが可能です。その場合、ターゲットデバイス前面 (左脚の場合) の小さいボタン (ストッパー) をドライバー先等で押しながら移動させて下さい。 (図11)

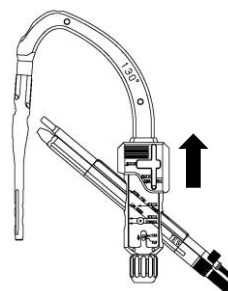


図9

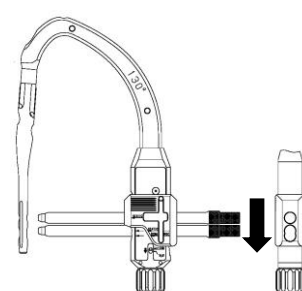


図10

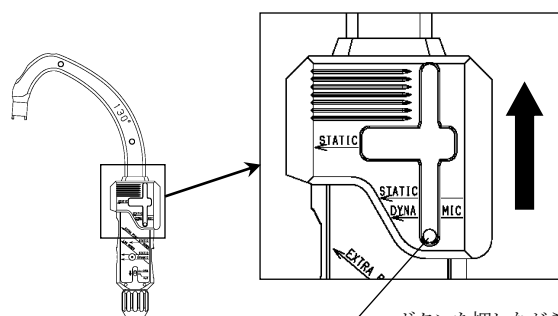


図11

ボタンを押しながらガイドを移動させる

- 9) ネールを髓腔へ挿入します。挿入が困難な場合、T/D 用ロッドインパクターをターゲットデバイスに接続し、軽く叩き込みます。挿入後、ガイドワイヤーを取り外します。 (図12)

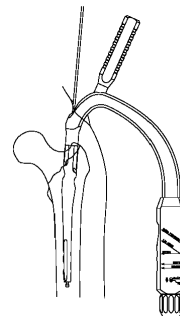


図12

- 10) ラグスクリュー用スリーブに、ラグスクリュー用ガイドピンスリーブ (内筒)、エクストラ用スリーブ (外筒) 及びガイドピンスリーブ (内筒) を組み付け、ターゲットデバイスに取り付け、つまみで固定します。 (図13)

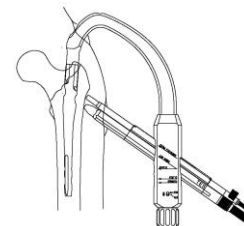


図13

- 11) ガイドピンの刺入位置を確実にするため、ラグスクリュー、エクストラ共に 3.2 ガイドピン用ピンオウルにて外側皮質を穿孔します。 (図14)

- 12) 3.2 ガイドピンアダプタを装着し、3.2 ガイドピンを挿入します。ガイドピン（ラグスクリュー側）は骨頭軟骨下骨直下まで挿入します。（図 15）

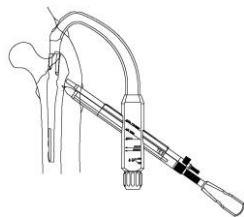


図 14

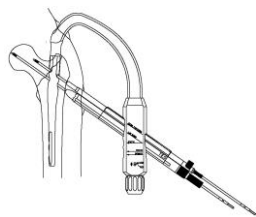


図 15

- 13) ラグスクリュー用ガイドピンスリーブ（内筒）を取り外し、外側骨面にガイドピンデプスゲージ（骨面直接型）を押し当て、ガイドピン挿入深さを計測します。（図 16）  
ラグスクリュー用ガイドピンスリーブ（内筒）が外しにくい場合は、六角 5.0 中空レンチを後端に取り付けて外して下さい。  
14) ラグスクリュー用スリーブ先端を骨面に押し当て、つまみで固定します。ステップリーマーのストッパーを計測長より 10mm マイナスした位置に合わせ、リーミングを行います。（図 17）

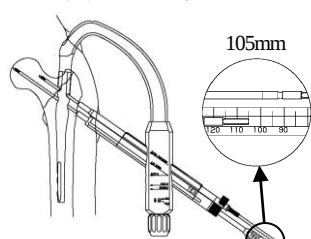


図 16

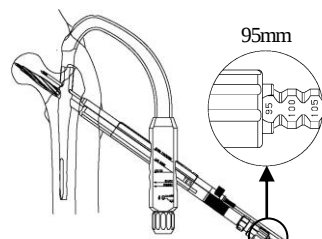


図 17

- 15) ラグスクリュー後端にラグスクリュー用インサータを取り付けます。ラグスクリュー用インサータは締め付けた後、ラインマーキングを合わせて下さい。（図 18-1）  
その後、ラグスクリュー T レンチに挿入し、T ハンドル部のつまみで固定します。（図 18-2）

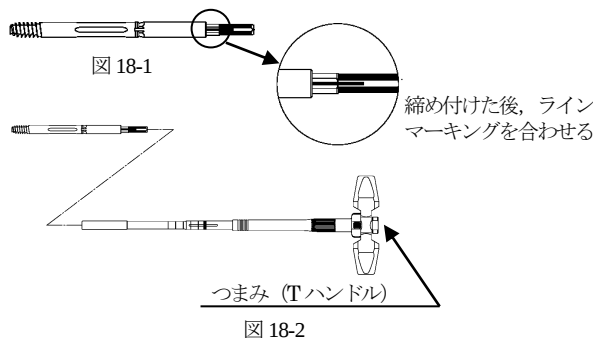


図 18-2

- 16) ラグスクリュー T レンチにてラグスクリューを挿入します。（図 19）  
必要に応じ、圧迫ナットを用いて骨折部へ圧迫をかけます。（図 20）  
17) ラグスクリュー用インサータを残したまま、ラグスクリュー T レンチを取り外します。

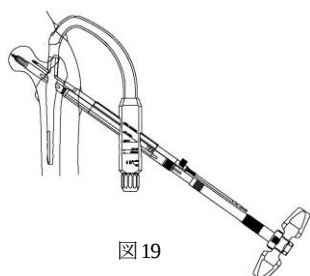


図 19

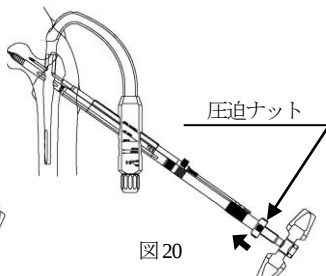


図 20

- 18) エクストラ用ガイドピンスリーブ（内筒）を抜き、ガイドピンデプスゲージ（骨面直接型）を押し当て、ガイドピン挿入深さを計測します。（図 21）  
19) 骨質が硬い場合は、4.0 コーテックスドリルで外側皮質を開窓します。（図 22）

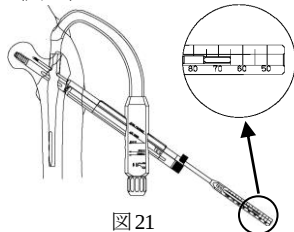


図 21

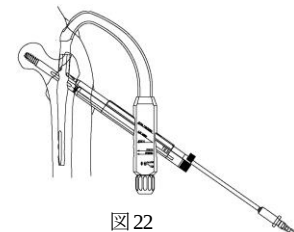


図 22

- 20) 選択したエクストラピン又はエクストラスクリューを、エクストラピン用 T レンチを用いて挿入します。（図 23）  
エクストラピンの場合は、T レンチ後端を慎重にたたきながら挿入して下さい。  
21) エクストラピンを途中で引き戻す必要が生じた場合は、ラグスクリュー用スリーブを取り外し、抜去用エクストラピンホルダーを取り付けた抜去用エクストラピン T レンチを用いて引き抜きます。（図 24）  
エクストラピンのヘッド部が骨面にあたっている場合は、手順 27) の方法にて引き戻して下さい。

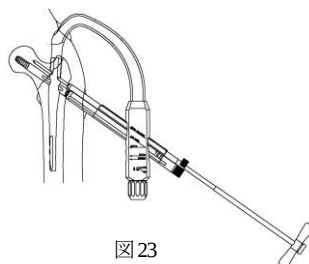


図 23

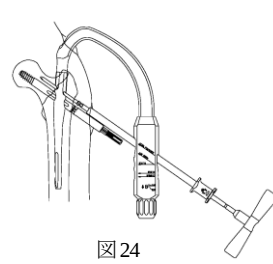


図 24

- \* 22) ディスタルススクリュー用スリーブとディスタルススクリュー用ドリルスリーブを組み付け、ターゲットデバイスのつまみでスリーブを確実に固定し、ディスタルススクリュー用オウルにて外側皮質を穿孔します。（図 25）  
ターゲットデバイス 130° の場合、スリーブを安定化させるため、セレクトガイドを介してスリーブを固定して下さい。（図 10）  
23) ドリルアダプタを装着したディスタルススクリュー用ドリル（L）又はストッパー付き（36mm）にて穴あけを行います。（図 26）

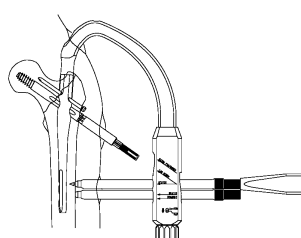


図 25

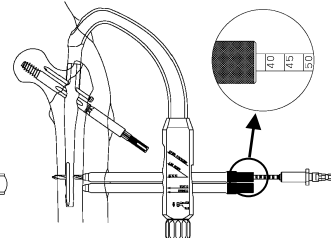


図 26

- 24) ドリルスリーブを外し、スクリュースリーブ先端を骨面に押し当て、ディスタルススクリュー用デプスゲージを挿入し先端フックを内側皮質に引っ掛け、スクリュー長を計測します。（図 27）  
本デプスゲージの計測値は、2mm 突出換算済みです。  
25) 選択した長さのディスタルススクリューを、ディスタルススクリュー用ドライバーを用いて挿入します。（図 28）

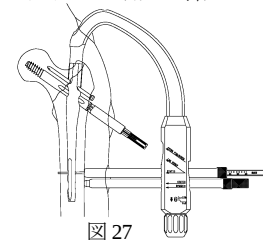


図 27

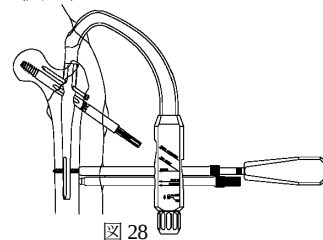


図 28

- 26) ストレートドライバー L を用いてネイル接続ネジを外し、ターゲットデバイスを取り外します。（図 29）



図 29

- 27) エクストラピンの長さが不適切で置換が必要な場合は、エクストラピン抜去用プライヤーでエクストラピンを把持し、つまみを締めて引き抜きます（図 30-1）。把持力が足りない場合は、ストレートドライバー L にてプライヤーのつまみを増し締めし、確実に固定して下さい（図 30-2）。

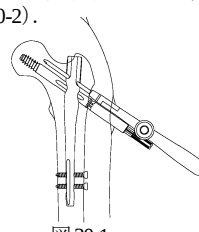


図 30-1

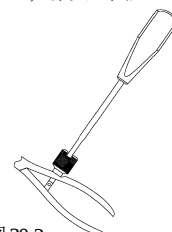


図 30-2

- 28) ストレートドライバー（ホールド型）にエンドキャップを組み付け、グリップ後端の中軸つまみをねじ込み、固定します。ラグスクリュー用インサータに、ロッキング確認用ラグスクリューT レンチを取り付け、ラグスクリューの溝合わせを行いながらエンドキャップを確実に挿入し固定します。固定後、中軸を緩めドライバーを取り外します。（図 31）
- 29) ラグスクリュー用インサータを取り外し、インプラントの状態を正面像及び軸射／側面像で確認して縫合し、手術を終了します。（図 32）

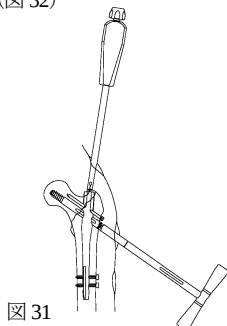


図 31



図 32

### 3. 使用後

使用後は、水ですすぎを完全に行い、[保守・点検に係る事項] に定める滅菌方法にて滅菌を行います。

### 4. 使用方法等に関連する使用上の注意

- 使用前に必要な手術器械が揃っているか確認して下さい。
- ガイドピン、ドリル等の刃物類は破損を及ぼすような過剰な負荷をかけないよう適切に使用して下さい。
- 損傷、磨耗、曲がり等が見受けられるガイドピン、ガイドワイヤー及びドリル等は、絶対に再使用しないで下さい。
- ターゲットデバイスにラグスクリュー用スリーブを装着し、ステップリーマーを通し、ネールのラグスクリューホールに干渉しないで通過することを確認して下さい。
- ターゲットデバイスにディスタルススクリュー用ドリルスリーブを組付けたディスタルススクリュー用スリーブを装着し、ディスタルススクリュー用ドリルを通し、ネールのディスタルススクリューホールに干渉しないで通過することを確認して下さい。
- ガイドピンアダプタとガイドピンの接続は確実に、パワーツールとの接続を確実に行って下さい。
- ドリルアダプタとドリルの接続は確実に、パワーツールとの接続を確実に行って下さい。
- ガイドピン、ガイドワイヤーが意図しない方向に進んで周囲の組織内に進入しないよう、イメージインテンシファイヤー（X 線透視）を用いて、ガイドピン及びガイドワイヤーの位置を頻繁に確認して下さい。
- フレキシブルリーマーは絶対に逆回転させないで下さい。
- ステップリーマーで穴あけを行う際は、干渉等でインプラントにキズを付けないよう慎重にリーミングを行って下さい。
- ガイドピン、ガイドワイヤーを介してリーマー等で穴あけを行う場合は、無理な力を加えてガイドピン及びガイドワイヤーをねじ切らないよう、正面像及び軸射像で確認しながら、慎重にリーミングを行って下さい。
- ネール挿入の際は、ターゲットデバイスを叩かないよう、手手的に行って下さい。
- エクストラホールに 3.2 ガイドピン及びエクストラピン／スクリューを挿入する際は、過剰な負荷等でネールへの干渉・外れ等がないよう、4.0 コーテックスドリルでプレホールを開窓するなどして、慎重に挿入を行って下さい。
- ディスタルススクリュー用ドリルで穴あけを行う際は、過剰な負荷等でインプラントへの干渉・外れ等がないよう慎重にドリリングを行って下さい。
- 骨質が硬くドリリングに時間を要するような場合は、無理に継続せず、適宜ドリルを抜いてドリルに付着した骨屑を除去したり、生理食塩水で冷却したりする等、慎重に行って下さい。  
[無理なドリリングを続けると、骨や周囲組織に熱による障害が発生する恐れがあります。]
- 中空内に骨屑片が集積しないよう、中空構造を持つ器具はこれを術中に除去しながら使用して下さい。
- エンドキャップ締結の際、ラグスクリューの回旋防止及びエンドキャップの緩み防止の為、専用の器具で確実に行って下さい。
- エンドキャップ締め付けの際、ドライバーの傾斜角を 15° までとして下さい。15° を超えると、ドライバー先端がエンドキャップ六角穴から脱落する恐れがあるほか、エンドキャップのネジ端部に損傷が生じて緩む恐れがあります。
- インプラントの際、打撃したり、無理に挿入しないで下さい。  
[インプラント又は手術器具が破損する恐れがあります。]
- スクリュー挿入／抜去の際は、スクリューのヘッドドライブに対してドライバー軸を傾けないよう軸直に操作して下さい。  
[傾けた状態でのドライバー操作によりヘッドドライブが破損する恐れがあります。]
- 挿入／抜去の際は、専用の手術器具を正しく接続するとともに、周囲の神経や血管を損傷させないよう、イメージインテンシファイヤー（X 線透視）で確認しながら、慎重に行って下さい。

- 22) 抜去する際は、製品／抜去器具に無理な力が加わらないよう慎重に使用して下さい。

[過度の負荷により、製品／抜去器具が破損する恐れがあります。]

### 【使用上の注意】

#### 1. 重要な基本的注意

- 刃の摩耗やキズ、曲りの激しい刃物類（ドリル、ガイドピン、リーマー）は、破損する恐れがあるので、絶対に使用しないで下さい。
- 先端の変形や摩耗が激しい回転工具（ドライバー）は破損する恐れがあるので、絶対に使用しないで下さい。
- 使用後は隙間部分、内管及び中空部分や複雑な構造を有する部分に血塊等が残らないよう速やかに洗浄後滅菌して下さい。  
[「保守・点検に係る事項」参照]  
[嵌合部等にある血塊や異物を除去しきれない恐れがあります。]

### 2. 相互作用（他の医療機器等との併用に関すること）

#### 1) 併用禁忌（併用しないこと）

| 医療機器の名称等                  | 臨床症状・処置方法                   | 機序・危険因子                      |
|---------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 当製造販売業者製（※1）以外の骨折部固定内副子材料 | インプラントの緩み、破損の危険性が高まる恐れがある。  | インプラントが適切に埋入できないため固定力等が不足する。 |
| 当製造販売業者製以外の手術用機械器具        | 手術用機械器具の不具合による危険性が高まる恐れがある。 | 手術用機械器具の操作が正しく機能しない。         |

（※1）TES ネイルシステム（医療機器承認番号：22700BZX00086000）

### 3. 不具合・有害事象

本製品の使用において、患者の状態、骨折部の形態及び骨癒合の状態などにより次のような不具合・有害事象がまれに現れることがあるので、異常が認められた場合は直ちに適切な処置を施して下さい。

- 重大な不具合
  - 製品の破損、破損片の体内遺残
- 重大な有害事象
  - 偽関節、変形骨癒合、再骨折（術中／術後）
  - 二次骨折
  - カットアウト、インプラントの脱転
  - 感染症、血栓症
  - 骨の短縮、骨壊死、骨密度の低下
  - 金属アレルギー、異物アレルギー
  - 手術における神経的損傷、血管損傷及び穿孔時発熱障害
- その他の不具合
  - 挿入／抜去時の製品／器具の破損
  - 術後のインプラントの緩み、Z-effect
- その他の有害事象
  - 痛みや不快感、異物感
  - 骨癒合不全
  - 血行再生障害
  - 挿入／抜去時における破損器具の体内遺残

### 4. 高齢者への適用

一般的に高齢者は骨量・骨質が十分でないことが多いので、本製品の使用は慎重に行い、術後の経過にも十分注意して下さい。

### 【保管方法及び有効期間等】

#### 1) 保管方法

直射日光及び高温多湿を避け保管して下さい。

### 【保守・点検に係る事項】

#### 【使用者による保守点検事項】

##### 1. 使用前

- 本手術器械は未滅菌のため、手術前に予め次に示す条件にて滅菌を施して下さい。

・滅菌方法及び滅菌条件（オートクレーブ滅菌）

| 熱源      | 水蒸気     |         |
|---------|---------|---------|
| 処 理 圧 力 | 118 kPa | 196 kPa |
| 処 理 温 度 | 121 ℃   | 132 ℃   |
| 処 理 時 間 | 20 分以上  | 5～10 分  |

- 製品を使用する前に摩耗、キズ、割れ、有害なバリ、錆、接合の不良等ないか、外観検査を実施して下さい。

##### 2. 使用後

- 使用後は、速やかに洗浄を行い血塊等を除去し、使用前の欄に示す「滅菌方法及び滅菌条件」で滅菌を行い保管して下さい。
- 洗浄中又は洗浄後の製品を放置すると錆等が発生する恐れがありますのでむやみに放置しないで下さい。
- 洗浄剤は、医療用中性洗剤等の専用の洗剤を用い、適正な濃度で使用して下さい。（洗剤の使用説明を参照して下さい。）
- 強アルカリ／強酸性洗剤・消毒剤は器具を腐食させる恐れがあるので、使用を避けて下さい。やむを得ず使用する際は、製品の状態を確認し腐食等が発生しないよう洗浄して下さい。

- 
- 5) 洗浄の際、製品の表面等にキズがつかないようにブラシ、スポンジ等を使用し、金属製たわし、クレンザー（磨き粉）等の使用は避けて下さい。
  - 6) 隙間部分や中空穴を有する製品はブラシ等で隙間部分や中空穴部分を入念に洗浄し異物を除去し、洗浄後の製品に異物がないことを十分確認して下さい。
  - 7) 可動部を有するものは可動部分を操作しながら洗浄して下さい。
  - 8) 分解可能なもの或いは組み合わせて使用するものは最小単位まで分解し洗浄を行って下さい。
  - 9) ブラシ等で血塊等を除去できない場合は隙間部分等を血液溶解剤又は蛋白分解酵素剤等を用いて洗浄後、超音波洗浄機を用いて洗浄し、滅菌して下さい。特に隙間部分は異物が残りやすいので、異物がないことを十分確認して下さい。
  - 10) 血液溶解剤又は蛋白分解酵素剤等の薬剤を使用する場合は取扱い説明書を参照の上使用して下さい。  
超音波洗浄機を使用する場合は、取扱い説明書を参照の上使用し、製品に異物等がなくなるまで洗浄して下さい。
  - 11) 超音波洗浄機を使用する場合は、取扱い説明書を参照の上使用し、製品に異物等がなくなるまで洗浄して下さい。
  - 12) 超音波洗浄機を使用する際は、ドリル等の刃物が接触し、キズ等が発生しないよう注意して洗浄して下さい。
  - 13) 合成樹脂が使用されている製品に高圧蒸気滅菌を行う場合、合成樹脂部分が滅菌トレー又は滅菌用金網容器等の金属部分に直接触れないようにして下さい。
  - 14) 洗浄、滅菌後可動部分を有する製品がスムーズに可動しない場合は、必要に応じ水溶性潤滑剤または流動パラフィンを塗布して下さい。水溶性潤滑剤又は流動パラフィンを使用する場合は取扱い説明書を参照の上使用して下さい。
  - 15) 洗浄後は、水ですすぎを完全に行い、腐食防止のために、直ちに乾燥させて下さい。

**【製造販売者及び製造業者の氏名又は名称等】**

**製造販売業者**

株式会社 ホムズ技研

〒391-0213 長野県茅野市豊平 4734-352

電話番号 0266-76-5881

**製造業者**

株式会社 ホムズ技研